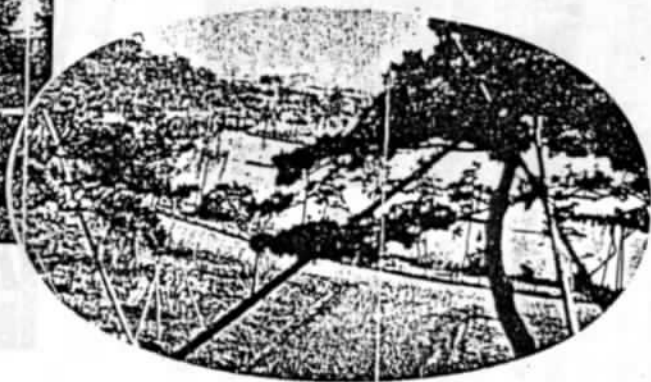




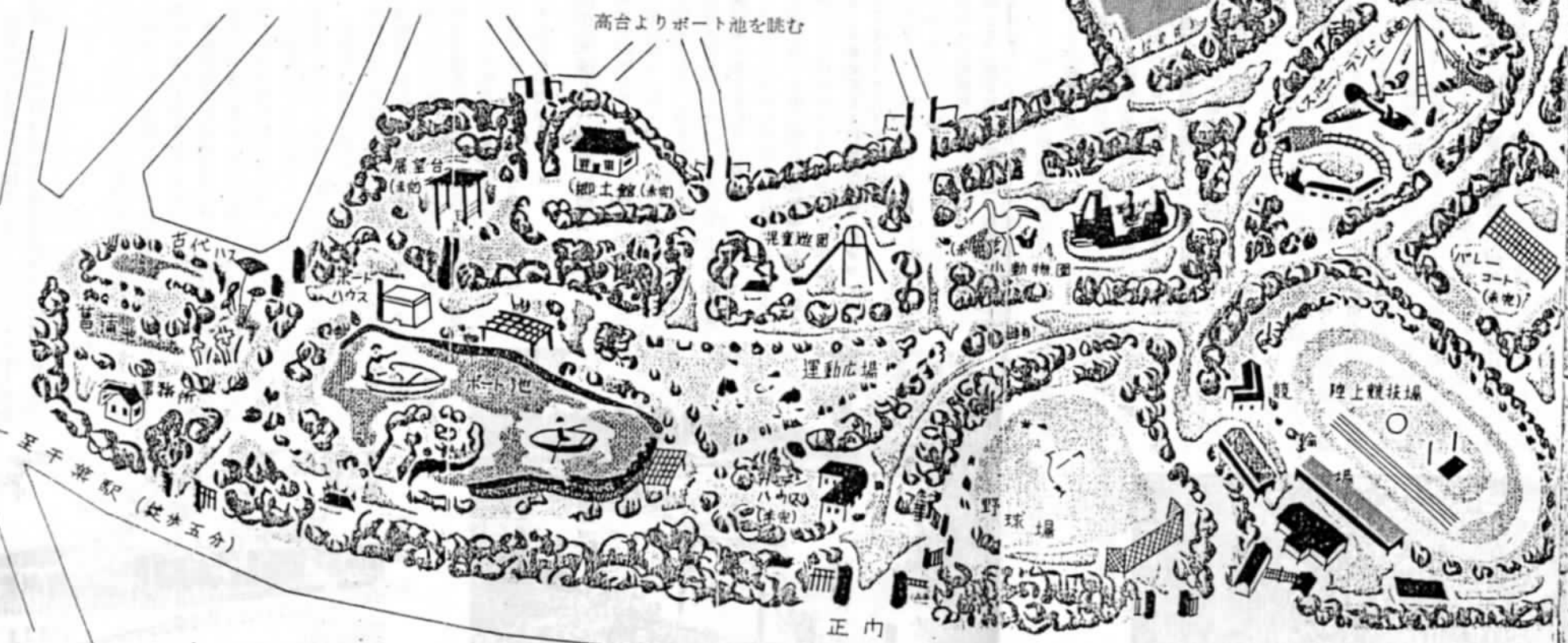
園内の一部



高台よりポート池を眺む

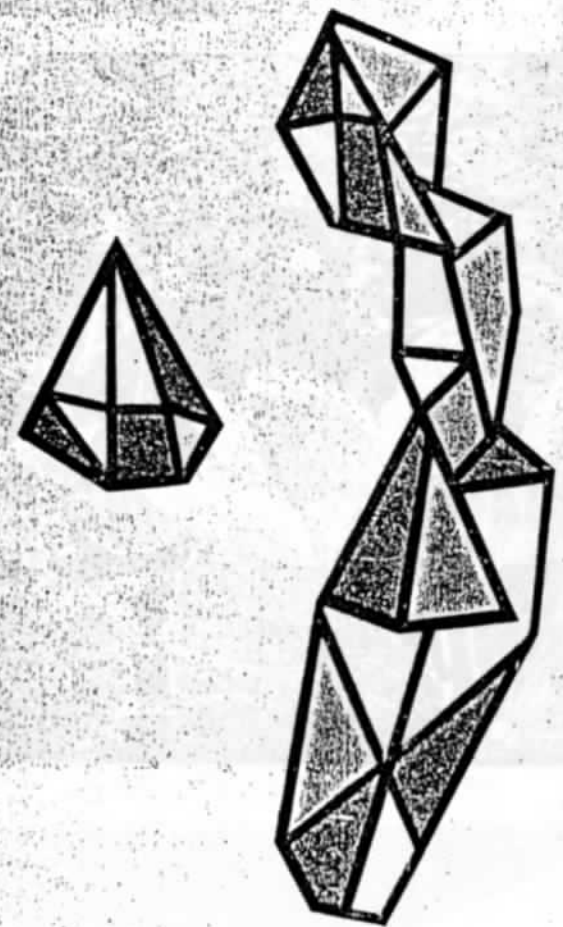


千葉公園



正門

千葉駅 (徒歩五分)



千葉市

千葉公園の沿革

千葉市には従来公園として、一、二、三平方キ余（四〇〇余坪）の猪鼻山公園及び昭和八年に造られた四、二九七・五平方キ（一三〇〇坪）余の荒木山公園だけであつた。

その荒木山公園も戦災、引越終戦の混乱により園内の樹木は殆ど全部切り取られ牧地の一部は食糧増産を補う為の菜園にまでされてしまつた。

終戦の混乱が回復するに伴い、市は市民の憩いの場とするは勿論県都として広く市民の利用するに相応しい公園を戦災復興都市計画事業の一環として造成することに成り昭和二十三年に着工し既に八〇%の建設を終えており現在も引越完成を期して着工事を進めている。

当公園の地域は前からあつた荒木山公園、紫の生茂つた綿打池、旧軍用地及び一部民有地を買収した一連の花陵地帯であつて、総面積二、一四、八七六平方キ（六五、〇〇〇坪）に及ぶ広大なものであり且つ国鉄千葉駅の北方僅か二〇〇本の地点にあり然し昭和三十一年懸案の千葉駅北側の出改札が完成し足の便も一段とよくなり徒歩五分にて到着することが出来る。

公園内の完成した施設の概要は

野球場 昭和二十四年五月に完成、両側九一・七米（三〇一フィート）中心部一一九・四八一米（三九二フィート）を擁する公認野球場であり、春から秋迄のスポーツシーズンには学生、社会人将又プロ野球と手入の暇もない観客多くのスポーツ愛好者に親しまれている。

陸上競技場 昭和二十四年に完成された名実共に県下一を誇る優秀な設備を有する第二種公認競技場であり、数々の全国大会を挙げた経験がある。昭和三十一年にはメルボルンオリンピック派遣の日本代表選手がこのグラウンドで約三週間に亘つて最後の仕上げを行った。

競輪場 陸上競技場の外側に施設され見よ買よい競輪場として人気があり開催中は毎日数千人の愛好者で賑わう。

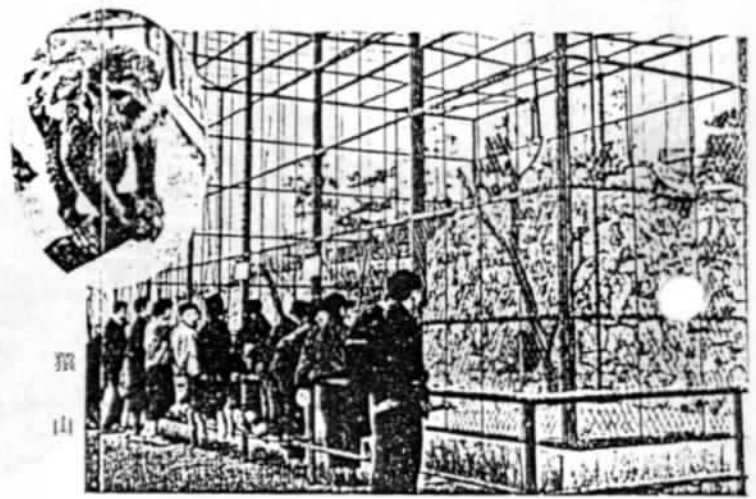
体育館 西側台地に総経費五、八〇〇万円にて昭和三十一年一月に完成した。総面積二、五一二・四平方キ（七六〇坪）観客場面積一、二二四平方キ（三三二坪）観客三千人を収容出来る雄大な然も室内競技の諸設備、夜間競技の照明設備を完備したスポーツの殿堂である。

ボート池 御来遊の皆様が楽しく遊べるよう、よく整備された二十五隻のボートがあり子供連れでも安心して水遊びに興ずることが出来る。

児童遊戯場 スベリ台、ブランコ、シーソー、ジャングルジム、砂場その他数々の児童向施設が完備しており終日児童の遊びの友になつてくれる。又その一隅には申歳にちなんで造られた猿山があり、可愛い十匹の日本猿が愛嬌をふりまいている。

この外、園内には二七、〇〇〇本に及ぶ松、柳、樅、ヒマツヤシダー、ユツカラン、サンゴジュ、玉伊吹等の大小の樹木が植えられてあり、そのしたたる緑の間に縦横に散策道が開けている。春には梅が咲いて園内一、三〇〇本の桜が咲きみだれお花見によく又風薫る五月には木立の緑の間に三、二〇〇本のつじが紅や白の花で園内を色彩り広々とした休憩所と相俟つて、家族連れ、小中学校の団体のレクリエーションとして最適であり更に藤、花菖蒲と続き又蓮田には二千年前の実から芽生えた有名な蓮が清らかな花を浮かべる轉回季を通じて花が絶えない。

展望台に登れば市街地は勿論、千葉港、川崎線鉄更に晴れた日には羽根の丘陵も又東京湾に浮ぶ白帆越しに遠く富士の秀峰も窺ふことが出来る。



猿山



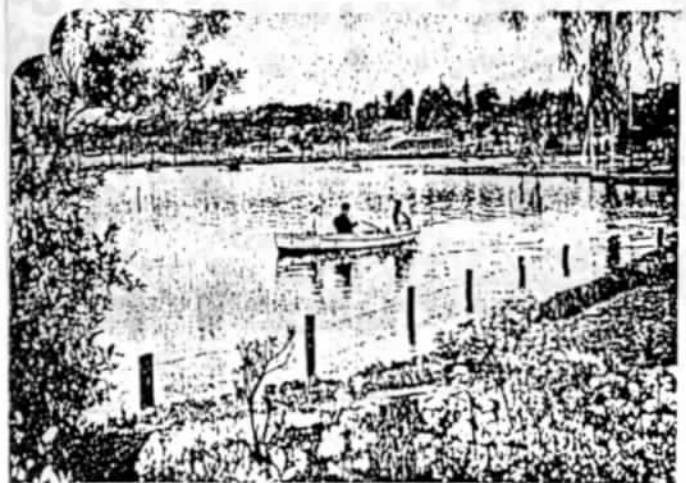
児童遊園地



苑路



ふじ



綿打池



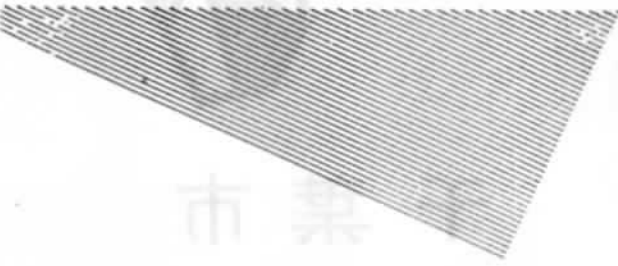
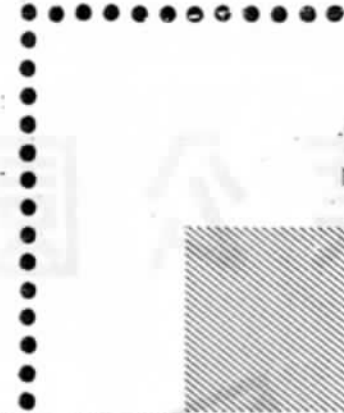
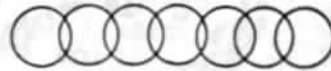
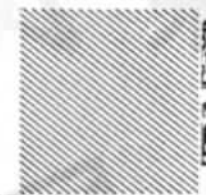
競輪場



菖蒲園



二千年前の実から芽生えて咲いた大賀蓮



市景